

校長 田邊 道行

今年度もありがとうございました

本年度の授業日は、1年生から4年生までの児童は本日の終業式をもって終了し、5年生と6年生は明日の卒業式が最後となります。この1年間、保護者や地域の皆様から多大なるご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、当校では「わくわく チャレンジ ありがとう」を合言葉に、「よりよく かかわる」力の育成を目標として教育活動に取り組んでいます。先月の全校集会で、子どもたちに「感謝」について話をしましたので、その内容を紹介いたします。

今から2年半前の6月の全校集会で、「ありがとう」の反対の言葉について話をしました。覚えているでしょうか。（春日小学校ホームページの学校だより「ふれあい」令和5年度7月10日号をご覧ください。）

「ありがとう」を昔の言葉にすると「ありがたし」となり、漢字では「有難し」と書きます。「難」は「難しい」という意味ですから、「有ることが難しい」、つまり「めったにないこと」がもともとの意味です。

そう考えると、その反対は「有ることが易しい」「普通にあること」となります。これを一言で言うところ「当たり前」です。「あって当然」「してもらって当然」という考え方です。

何かをしてもらっても、「当たり前だ」と思っていると、感謝の気持ちは生まれにくくなります。

例えば、家で食事を作ってもらふこと、食器を洗ってもらふこと、友達が声を掛けてくれること、先生が勉強を教えることや注意すること、地域の方が毎朝安全を見守ってくださることなどです。これらを「当たり前」と思った瞬間に、「ありがとう」は消えてしまいます。日々の生活の中で、当たり前と思っていることを見直し、感謝の気持ちをもつことが大切です。

そのような話を2年前にしたのですが、皆さんは覚えていたでしょうか。

「感謝」の3段階

さて、「感謝」には三つの段階があります。

一つ目は、気付くことです。2年前の話のように、周りの人たちに支えてもらっていることが、「当たり前ではない」と気付く段階です。

二つ目は、感じることです。「ありがたい」「うれしい」「温かい」と心が動く段階です。

三つ目は、行動することです。「ありがとう」と伝える、頭を下げる、相手に気持ちを返そうとする、誰かのために行動するなど、感謝を形にする段階です。

多くの人は一つ目と二つ目まではできますが、三つ目には少し勇気が必要です。

先日、地域の方から次のようなお話を伺いました。横断歩道で止まったところ、渡り終えた本校の児童が車の方を向き、頭を下げて「ありがとうございました」と伝えたそうです。運転手の方はとてもうれしい気持ちになったと話してくださいました。感謝は、行動にしてこそ相手に伝わるものです。

皆さんは、学年でお世話になった方々に対してお礼の会を開くなど、感謝を伝える取組を行ってきました。一方で、登下校時に見守ってくださる地域の方々や安全パトロールをしてくださる方へは、どのように感謝を伝えることができるでしょうか。

元気なあいさつをすることもその一つの方法かもしれません。ただ、ぜひ挑戦してほしいことがあります。見守ってくださっている方の前で立ち止まり、顔を見て「ありがとうございます」と伝えることです。もちろん、道路を横断している最中は、立ち止まってはいけません。しかし、信号が青になるのを待っているときなどに、感謝の気持ちを言葉にすることも大切です。

さらに、感謝のより高い形は、相手の名前を呼んで「〇〇さん、いつもありがとうございます」と伝えることです。そのためには、名前を聞かないといけませんから、難しくなりますね。いつかチャレンジしてみてください。

ところで、毎朝、玄関前で歩きながら皆さんを迎え入れていると、必ず立ち止まってあいさつをしてくれる児童がいます。1年生の笠原悠暉さんです。とても丁寧な姿で、私も自然と立ち止まってあいさつを返します。感謝やあいさつは、言葉だけでなく態度も大切です。

当たり前ではないことに気付き、ありがたいと感じ、それを行動に移す。このことに挑戦してほしいと思います。行動することで、きっと何かが変わります。もしも挑戦した人がいたら、何が変わったか私に教えてください。その変化に気付くことこそが、「わくわく チャレンジ ありがとう」の合言葉が示す姿です。みんなで「感謝」を大切にする学校にしていきましょう。

このような話をした翌日、玄関前でいつものように歩いていると、何人もの子どもたちが私の前で一旦足をそろえてあいさつをしてくれました。

その後、今月になっても「子どもたちから丁寧なお礼のあいさつをもらった」と地域の方からお電話をいただきました。

私の話を受け止めて、それを実践できる子どもたちがいることに感動しました。そして、そのような感動を与えてくれた子どもたちに「感謝」です。

